

令和2年度 月島第二小学校自己評価報告書

中央区立月島第二小学校 住所 中央区勝どき1-12-2

校長 柄澤 武志

児童数 599名 学級数21（通常18・特別支援学級3） 教職員数 31名

教育目標

○ 心の豊かな子ども ○ よく考える子ども ○ たくましい子ども

1 今年度の達成状況と取組状況

重点目標1 「確かな学力を身に付けさせる教育活動」

評価項目：①児童が主体的に課題解決の方法を考えたり、選択しながら、課題を追究する学習の工夫を図る。

②習熟度別少人数指導、放課後補習等により、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

(1) 評価項目の①については、教員、保護者、外部評価委員の評価は、「十分達成している・達成している」の項目を80%以上得ることができている。このことから、①については、肯定的評価を得ることができ、目標が達成できていると考えている。今後も、児童が、主体的に多様な課題の解決方法について考えることができること、課題を追究する学習が展開できること等の授業改善を目指し、指導方法の工夫を行っていく。

(2) 評価項目②においては、教員、保護者、外部評価委員の評価は、「十分達成している」の割合が高く、それぞれ肯定的評価を受けている。このことからこの項目に関しては、目標を達成していると捉えている。これは、児童が、習熟度別少人数指導、放課後補習等の本校独自の個に応じた指導方法の工夫により、基礎的・基本的な学力を身に付けることができたことからの結果である。今後も、算数科はもとより、教科に関わらず、学習内容や発達段階に応じて、指導方法の工夫を行いながら、既習事項の理解を深め、基礎基本の定着を図るようにしていく。

(3) 評価項目の②では、児童アンケートの結果からも、「授業内容がよく分かる・分かる」を合わせると、90%以上の児童がそのように感じており、指導法の工夫や授業改善の成果が出ている。特に、児童は習熟度別少人数の授業に概ね肯定的な評価をしていることも分かった。また、保護者からのアンケートの中の「学校は児童に基礎学力を身に付けるように教えている」の項目でも、「十分達成している・達成している」の肯定的評価が90%以上であり、十分な理解を得ている。保護者からも、算数科で学習した内容の基礎基本の定着を図るための少人数指導の取組が有効であると受け止められている。今後も、学力向上への重要な取組の一つとして、継続していく。また、「東京ベーシック・ドリル」を活用した放課後の補習活動「さんすう塾」を行うことを続けるなど、個に応じた指導の工夫を展開していく。

重点目標2 豊かな心を育む教育活動

評価項目：①「へんじ・あいさつ・あとしまつ」の指導をとおして、礼儀正しい児童の育成を図る。

②道徳の授業、命と心の授業を充実させ、自他共に大切にする心の育成を図る。

- (1) 評価項目①について、児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価80%が達成された。「へんじ」や「あいさつ」では「大きな声で行う」「気持ちのよい声で行う」など、児童は、相手を意識して礼儀正しい行動を取ることができている。また上学年の児童が行うことで下学年の児童もお手本にし校内全体に広がっていくと考える。これらの行動を認め励ましながらか定着化を図っていく。
- (2) 評価項目②では、道徳の授業の進め方について全学年で工夫している。各学年の発達段階に沿って、内容を工夫しながら計画的に行っている。その結果が、教員アンケートの「児童指導の状況」の中の『よい人間関係の醸成』肯定的評価90%にも表れている。今後も、道徳の授業、命と心の授業を充実させ、自他共に大切にす心の育成を図る。

重点目標3 健やかな心と体を育む教育活動

評価項目：①マイスクールスポーツの縄跳びや体育的行事の取組をとおして、粘り強くやりとおす力を育む。

②オリンピック・パラリンピック教育、運動会や展覧会等の行事をとおして、仲間と協力して物事をやり遂げる力の育成を図る。

- (1) 評価項目①では、マイスクールスポーツ「なわとび」の取組を年間を通して推進し、児童の体力の向上を図ることに有効であった。子どもたちの持久力の向上につながっている。今年度の取組は、コロナ禍の中での対応となり、例年とは異なる実施内容となったが、保護者・地域に協力・理解を得ながら、安全面に配慮し行うこともできた。今後も児童がなわとびの技能を高め磨き合う姿が年間を通し見られるようにしていく。
- (2) 評価項目②では、展覧会の取組に関し、コロナ禍における対応を行いながら、安全に実施することができた。体育館に作品を展示し、児童・保護者の鑑賞方法を工夫しながら実施した。保護者のアンケートからも肯定的な内容のものが多く見られ、今年度実施した大きな行事としても、目標が達成できたと捉えている。
- (3) 「体力調査」の結果を受け、日常の運動に親しむ活動や体育の学習での取組内容を工夫した。児童の課題となった内容に関しては、体育の学習の中に位置付け、改善できるように今後も取り組んでいく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

家庭や地域との連携

- (1) ホームページについては保護者アンケート、教員の自己評価とも今年度も改善が必要であるとの結果がでている。ホームページと合わせ、学校便りである「たより月二」や、学年だより等、学校からの情報提供の内容について工夫・改善を行っていくようにする。
- (2) 保護者アンケートから、学校の地域を生かした教育活動に対して肯定評価が今年度も80%以上と高い。家庭や地域との連携を図る工夫を行うことを通し、「開かれた学校」となるよう、今後も取組を継続していく。また、PTAや地域行事へ積極的に参加することを行うとともに、保護者には学校行事・保護者会等への協力を依頼して、相互の連携を図ることを積極的に進めていくようにする。

3 今後の改善策

(1) 確かな学力を身に付けさせるための授業改善

- ・全ての児童にとって「分かる」授業づくりを行う。その際には、本校の研究テーマでもあったユニバーサルデザインの視点に立ち、教室環境の整備を行う。また、教材教具や授業展開等も、ユニバーサルデザインの視点で工夫し実施する。
- ・ICT 機器（タブレット端末）の活用の工夫を行う。ICT支援員との連携を通し、充実した内容となるようにする。
- ・教師同士の高め合いを研修等を通して行い授業力の向上を図る。

(2) 「へんじ・あいさつ・あとしまつ」を行い、自他を大切にできる能力や態度を育む。

- ・大きな声で、返事をする、気持ちのよいあいさつをする、後始末を進んで行うことを児童に指導する。
- ・相手の立場に立って、礼儀正しい行動をとる。
- ・「へんじ・あいさつ・あとしまつ」の3つを柱に、家庭・学校・地域で連携をとり、大人も一緒になって実践していく。

(3) 特色ある教育活動にオリンピック・パラリンピック教育との関連を図る。

- ・中央区版一校一國運動として、カンボジアについての交流をさらに深める。その際には「東京 2020 大会」を視野に入れた活動計画になるようにする。
- ・「なわとび」の推進を行い、日常的な「運動」を学校生活に取り入れる。
- ・第5学年を中心に、環境教育を充実させるとともに、地域との連携を図りながら、エコ活動等、学校全体で取り組む。

(4) 学校の教育活動の発進力を高める

- ・本校の教育活動や児童の活動について保護者や地域にホームページ、学校だより等を活用し発信していく。
- ・保護者・地域に教育活動の取組が協力を得られるよう工夫や改善を行う。
- ・家庭・地域・学校が連携を深め、協働しながら、児童の成長を促す指導を推進する。